

〈平成26年度(2014年3月) 大学合格者の学部および現役・既卒別内訳〉 平成26年4月8日現在

Table with columns for University Name, Faculty Name, Current Status, Graduated, and Total Count. It is divided into sections for National/University of Public Universities, Private Universities, and Preparatory Schools (準大学).

銅像山通信 第17号
浅野学園同窓会会報・平成26年
発行日：平成26年5月20日 発行人：浅野学園同窓会



目次
〈ご挨拶〉
浅野学園同窓会会長 中村 順一 2
学校長 阿部 義広 2
平成25年度 浅野学園同窓会報告 3
委員会から(財務・総務・親睦・広報) 3
平成24年度 同窓会収支報告・25年度同窓会役員 3
〈特集 文壇で活躍する卒業生〉伊藤 潤氏 4
金城孝祐氏 5
平成25年度 各クラブの参加状況と活動実績 6
同窓会の報告 7
掲示板 7
編集後記 7
平成26年度 大学入学者の学部および現役・既卒別内訳 8

ご挨拶

卒業式に出席して思ったこと



浅野学園同窓会会長  
中村 順一 (30期)

さる3月10日、浅野高校の卒業式があり、同窓会会長として出席させて頂きました。整然とした卒業式らしい卒業式で、卒業生の印象もよく、きちんとしていて頼もしく感じられました。私からは「卒業した60年前と比べて、浅野はすっかり立派になり、特に、この20年あまりの発展は目を見張るものがある」と話を始め、「浅野の卒業生は、大学に入って、社会に出て、大きく伸びる、と云われるようになって欲しい」とのはなむけの言葉でしめくりました。

その翌週と翌々週の週刊紙には、高校別の大学進学状況が載っていました。浅野の進学校としての評価は今やしっかりと定着したようです。私なりの総合比較では、浅野は、男子の通学する全国の高校の中で、既に十指に入るところまできていると思っております。しかも、浅野には、単なる進学校にとどまらず、英国のパブリック・スクールに一脈相通するような雰囲気のみならず、人格形成に資する教育基盤があるように思われます。

昨年、図書館で、何冊かの中学・高校に関する案内書を読む機会がありました。浅野については、受験一筋ではなく、スポーツを中心にクラブ活動との両立が図られ、のびのびとした大らかな校風があり、熱心で面倒見のよい先生が揃っている、との記述が多くなりました。まさに、中高一貫教育のよさが活かされており、心強く感じました。

卒業式に出席し、その直後の週刊紙をみて、浅野は、これから更に素晴らしい学校になると、改めて確信に近い思いを抱いた次第でした。都会の中にもありながら自然環境に恵まれ、地域的に教育熱心な家庭の多い広域通学圏を背景に、毎年、素質ある新入生を迎え入れ、伝統ある校風のもと、中高一貫教育の利点が発揮されていくことと思います。もちろんその過程には多少の一進一退はあり得ると思いますが、それには九転十起という建学の精神が作用することでありましょう。

このような実績、評価は、ひとえに、現在に到る諸先生方の御指導、御鞭撻の賜物であります。ここに改めて、阿部義広校長先生をはじめ、現在教鞭をとっておられる先生方に敬意と謝意を表したいと存じます。卒業式に続いでいる謝恩会の席でも、御担当の諸先生から相次いで、学生達への熱い心温まる思いが述べられたのが印象に残っています。

組織一般についても云えることと思いますが、私は、学校は一つの生命体であると思っています。先生方、保護者の皆様、学生諸君、学校当局が一つのチームとして一体になり、将来に向け、次代のニーズに応じていく、そういう面でも、浅野はよい方向を歩んでいるように見受けられます。同窓生の一人として誠に嬉しい限りであります。同窓会というと、一般論として話題が懐古談になりがちですが、浅野の場合には、「昔もよかったが、今はもっとよい」という話題になるのではないのでしょうか。それだけ母校への関心と愛着が深まっていくことと思えます。

「同窓会に出席して」との一文が母校への思いで長くなってしまいましたが、同窓会をいたしましても、従来からの懸案である「同窓会の活性化」に鋭意取り組んでおります。明年の総会に向けて具体的な提言を示すべく検討を進めていますが、その際、年次同窓会、クラブ同窓会との連携、連絡を密にし、また、若い会員にも興味もてる活動にも心掛けていきたいと考えております。

念願の同窓会室が、学校当局の御配慮により、新設の体育館の中に設けられることになりました。御配慮に感謝いたしますとともに、その活用を図ってまいりたいと存じます。幸い、従来から続いております役員・運営委員会を軸として、今後とも、活気と魅力のある同窓会を目指して、努力を重ねていく所存でございますので、会員の皆様には、より一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。本年の御挨拶に代えさせて頂きたいと存じます。

逝く春を惜しみつつまた新学期



浅野中学・高等学校長  
阿部 義広 (46期)

今年は少し遅い3月末の開花であった桜も、花散らしの雨や風が続いて盛りは短く、4月7日の入学式には辛うじて散り残ったソメイヨシノが中学275名、高校272名の新入生を迎えてくれました。春爛漫、毎朝、重い浅野バッグを肩にかけて息を切らしながら遅刻坂を登る中学1年生の姿は、初々しくていいものです。心弾みます。

毎年『入学のしおり』に書くことですが、「君たちはいよいよ浅野中学という白い画用紙に自分の色で絵を描き始めます。先生方は筆遣いや絵の構図の指導はしますが描くのは君たち自身です。3年後にどうい絵が描きあがるのか、また6年後の2枚目の絵はどんなものになるのか、楽しみにしています」――中学入試というハードル（これは卒業生のみなさんの頑張りやで年々高くなっています）を越えて、夢と希望を胸に入学してきた新入生たちを、3年間で、あるいは6年間でどのように育てていくのが、学校の大きな課題であり責任でもあります。全員が大学進学（それも一流大学）を目指しますから大学入試に合格できる学力をつけることはもちろんですが、浅野はそれだけの学校ではありません。逐条的に書けば、友人を大切にする人間味ある生徒を、失敗にメゲない強く逞しい生徒を、感性豊かな生徒を、無知や無恥に恥じ入ることのできる生徒を、育てたいのです。かつての浅野は、名物先生の高度でユニークな授業と、充実した文化祭の展示、近県からも人が集まった体育祭の仮装行列とマスコット絵（古い卒業生ならご存知の高三生の民謡踊りと中3生の童謡ダンスも）、応援に燃えた関東学院との定期戦、楽しかった音楽祭……等々の学校行事が、理屈やマニュアルではなく自然に、浅野生の逞しさと優しさを育ててくれたように思います。

学校の体制も人心も変わって、かつては人間関係に必ずあった「快い曖昧さ」が許されない時代になっていますし、また、今日では、国を挙げての教育改革として「グローバル人材・リーダーの育成」が掲げられてそれが中高にも降りてきて、現場は本当に大変です。ただ昔に戻ればいいという訳にはいきません。しかし、浅野の94年の伝統の上に培われた「浅野魂」を忘れることなく、かつて諸先輩たちが築かれた土台の上に新しい浅野を造ってゆくことこそ、今、私たちに課せられた責務であります。まさに温故知新――学園では現在工事中の、図書館が5月に、体育館が11月に竣工予定ですが、併せて旧図書室の跡には今までなかった史料室を造って学園の歴史の継承にも努めてまいります。また、新しい体育館の3階には同窓会室を造ることも決定しております。

7年後、再びの東京オリンピックの年、平成32(2020)年には学園は創立100周年を迎えます。そこへ向かって学園はさらに高みを目指して少しずつ動き始めました。今後とも中村会長をはじめとする同窓会のみなさまには、ご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。

総会報告 平成25年度 浅野学園同窓会総会報告

平成25年度浅野学園同窓会総会は、25年6月1日、ホテルキャメロットジャパンにて午後5時、開催された。

31期菅野会員から開会挨拶に続き、物故者への黙祷。48期斎藤会長代行の挨拶に続き、46期阿部校長が挨拶。議長並びに書記選出については、役員提案の通り議長に49期関野氏、書記には64期堤氏が選任され、承認された。

議事として46期中島総務委員長から平成24年度事業報告、45期涌井財務委員長から決算報告がなされ、45期長峯氏からの監査報告が了承された。引き続き25年度事業計画案、25年度予算案がそ

れぞれ担当委員長より示され、一同異議なく了承された。

引き続き議案に沿って同窓会長人事案が斎藤会長代行から提案され、30期中村氏が推薦された。この議案についても全員異議なく了承。新会長が承認され、中村新会長より力強く抱負が語られた。

次に議案に沿って斎藤会長代行から役員運営委員についての報告、48期の原親睦委員長から懇親会の案内と続き、最後に31期横溝氏が閉会の言葉を述べ、25年度総会は滞りなく終了の運びとなった。(45期 古川高夫)

委員会から

財務

アベノミクスの効果なのかは定かではありませんが、日本全体が久しぶりに元気になっているような気がします。あれほど失業者の増加が問題になったのに、今は人手不足で困っている会社も少なくありません。2020年の東京オリンピック開催決定も明るいニュースで、前の東京オリンピックの時と同様に、東京・神奈川などの首都圏は大きく変貌することになるでしょう。ただ、長い目で見ると人口の減少はすでに始まっているわけで、心配の種が無くなったわけではありません。

足元を見つめなおすと、6年後のオリンピックの年、浅野は創立100周年を迎えます。その時まで、確固たる財務基盤を維持拡充し、100周年には、同窓会として母校に然るべき貢献ができるよう、「九転十起」の精神で健全な財務運営を心がけたいと思います。

(財務委員会委員長 45期 湧井敏雄)

総務

本年度中の竣工を目指し、新体育館・図書館の建設が着々と進んでおり、同窓会としても真に誇らしい限りです。加えて体育館の一角に同窓会用の部屋も出来ると聞き、長年の懸案であった活動の拠点を与えられ本当に有難いことです。学園側の御配慮に心より感謝致す次第です。同窓会も昨年より中村新会長のもと活動を一步一步進めており、同窓生皆様のご期待に少しでも応えられるように頑張っております。総務委員会と致しまして6月の総会、9月の学園祭（同窓会の部屋）に向けて諸々と準備を進めている所であります。

今後とも皆様方の御協力宜しくお願い致します。(総務委員会委員長 46期 中島賢司)

親睦

本年、6月14日 土曜日、消費税増税をモノともせず、恒例の「浅野学園同窓会総会並びに懇親会」が開催されます。同窓会親睦委員長を務めさせて頂いております48期の原茂男です。

今年は会場も新横浜国際ホテルに変わり、心機一転、

九転十起、中村順一会長の下、春に浅野を卒業するピカピカの新入会員を迎え、新入会員受入れ式など、これからも同窓生の皆様に、浅野学園同窓会に楽しくかかわって頂ける様な会にしたいと思えます。若い仲間と大いに語り合ひましょう。中村会長と共に、我が同窓会もこれから更に、大きく発展してゆくことでしょう。世界中の浅野の同窓生の皆様も気軽に参加ください。自前でお願ひします。

年内には新体育館、新図書館も完成する予定です。阿部校長先生のおっしゃっていた「同窓会を新体育館で開催したい」というお話を、実現できるよう我々ががんばっていきたく思います。「九転十起」の誉れを胸に、今年も浅野学園同窓会でお会いしましょう。同窓生の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

(親睦委員会委員長 48期 原 茂男)

広報

今年の浅野学園同窓会総会・懇親会は6月14日(土)新横浜国際ホテル南館で行われることになりましたが、中村会長の「同窓会に若い力を」という意思を受けて新入会員の懇親会費は半額となりました。今年の卒業生とかつての卒業生との初めての出会いは驚きと発見に満ちた楽しいひと時となるでしょう。

そして今年秋には落成予定の新体育館3階に待望の「同窓会室」が学校のご配慮で設置されることが決まりました。同窓会では現在、同窓会の活性化についての検討を進めています、さらに浅野100周年に向けてのアイデアを模索しているところです。このような活動の拠点として利用していくのはもちろんのこと、会員皆さんの交流の場として使われると期待しています。

(広報委員会委員長 48期 佐藤夕祐)

ご意見等、何でも結構ですからお寄せください。同窓会ホームページ：http://www.douzouyama.com/ Eメールアドレス：info@douzouyama.com

平成24年度 同窓会収支報告 (単位：千円)

(支出の部)		(収入の部)	
項目	金額	項目	金額
管理事務費	1,588	会費	2,042
事業費	3,120	終身会費	5,659
積立金	3,500	積立金取崩収入	0
予備費	0	預貯金利子	0
次年度繰越金	2,235	雑収入	110
		前年度繰越金	2,632
合計	10,443	合計	10,443

平成25年度 同窓会役員

期	役割	氏名
31	名誉会長	石橋 義史
30	会長	中村 順一
40	名誉顧問	淡路 雅夫
46	顧問	阿部 義広
36	副会長	加藤 勇治
45	副会長	古川 高夫
48	副会長	齊藤 清紀
	副会長	出井 善次
45	会計	湧井 敏雄
	会計	岩崎 正樹
45	監事	長峯 徳積
53	監事	広瀬 昌治

- 財務 湧井 敏雄
- 67期 青木 暁
- 総務 中島 賢司
- 19期 刈部 吉郎
- 30期 栗原 隆
- 30期 田邊 公男
- 31期 横溝 貢
- 31期 菅野 悦雄
- 40期 吉澤 暎一
- 44期 大平 和美
- 46期 新井 康
- 46期 水野 恭一
- 49期 関野 保幸
- 53期 熊澤 真二
- 65期 西田 慎也
- 50期 前田 渉
- 64期 堤 敬哉
- 親睦 原 茂男
- 48期 大山 豊造
- 20期 上杉 政勝
- 29期 上杉 衛
- 36期 菜花 典
- 38期 小池 政弘
- 40期 池田 浩雄
- 42期 小沢 勉
- 44期 長井 洋一
- 48期 高橋 義人
- 48期 秋本 正一
- 48期 片倉 歌蔵
- 51期 小此木 一男
- 54期 餅田 石垣三郎
- 75期 金子 久雄
- 50期 齋藤 琢斗
- 80期 ●広報 佐藤 夕祐
- 48期 山口 秀男
- 38期 石堂照日子
- 44期 石土 秀貴
- 48期 萩原 壽昭
- 48期 細野 泰彦
- 49期 萩原 雅一
- 49期 富田 悦生
- 55期 都築 淳一
- 58期 酒井 晴雄
- 45期 大野 浩光
- 58期 小林 俊洋

(委員名の太字は委員長、※は在校幹事)

〈特集〉

## 文壇で活躍する卒業生

浅野学園の卒業生のご活躍については、これまでもさまざまな分野でご報告させていただきましたが、近年では創作活動の分野ですばらしい作品を発表されている方がいらっしやいます。今回は文壇で活躍されているお二方の卒業生をご紹介します。



## 伊東 潤氏

2010年 『戦国鬼譚 惨』で第32回吉川英治文学新人賞候補。  
2011年 『黒南風の海』で本屋が選ぶ時代小説大賞2011受賞。  
『城を囁ませた男』で第146回直木三十五賞候補。  
2012年 『黒南風の海』で第18回中山義秀文学賞候補。  
『国を蹴った男』で第148回直木三十五賞候補、第34回吉川英治文学新人賞受賞  
2013年 『義烈千秋 天狗党西へ』で第2回歴史時代作家クラブ賞作品賞受賞。  
『巨鯨の海』で第149回直木三十五賞候補、第4回山田風太郎賞受賞。  
2014年 『王になろうとした男』で第150回直木三十五賞候補。

## 作家を志した理由、きっかけ

コンサルティング会社をやっていたが、リーマンショックで顧客を失い、致し方なく作家業に転進した。今でも自分はコンサルティングの方が向いている上、天才的コンサルタントだったと思っている。作家業は食うために致し方ない選択だった。

## 作品をお書きになる過程で、苦勞されたこと楽しかったこと

辛いことは「売れない」ことに尽きる。デビュー作の『武田家滅亡』は三刷りまでいったが、それ以後、腕は上がっているのに、なぜか初版止まりが続き、フェイド・アウトしかかった。しかし『城を囁ませた男』という作品が、何の前触れもなく突然、直木賞候補となることで、売り上げは右肩上がりとなっていった。いいものを書いていても、幸運に恵まれず消えていった作家たちのことを思うと、本当に自分は幸せだと思う。それ以来、文藝春秋社のある方角には足を向けて寝ないようにしている。

## 浅野での中高時代の思い出（印象に残った出来事・教員などのエピソード）、または浅野学園に対する印象

中原中也の「骨」という詩に出会ったのは衝撃だった。今でも、石橋先生の味わい深い朗読の声が思い出される。

## これからの浅野学園に望むこと（生徒ではなく、同窓会や教員に）

別にありません。

## 創作の分野の最前線で活躍されている氏から見て、浅野の授業に対する要望（浅野の授業で「生徒達にこういう視点で授業をする」とよいと思う）という御提言)

私は、日本アイビーエムなどの外資系企業に20年以上勤めてきた。中国系やインド系は死ぬほど勉強する。それを目の当たりにしているアングロサクソン系も必死に勉強する。勉強しているやつが勝つという図式は、いくつになっても変わらないし、何の職業に就いても変わらない、とつくづく思う。私のやっている作家業でも、勉強量が勝負を決めると言っても過言ではない。

## 同窓会の活性化につながる御提言（同窓会のネットワークをどのように活用するか、何か御提言があればお願い致します）

分かりません。

## 現役の浅野生へのメッセージ（現役生に望むこと）

これから皆さんは、受験や就職など幾多の苦難が待ち受けていると思います。

思い通りに行かないのが人生というもので、そんなものは当たり前、と思うくらいでいてほしいと思っています。落胆や失望を自分のパワーに変えるくらいのしたたかさで、図太く生きていって下さい。

## 金城 孝祐氏



2005年 佐藤太清賞公募美術展絵画の部特選  
2014年 『教授と少女と錬金術師』で第7回すばる新人文学賞受賞。

## 作家を志した理由、きっかけ

最初に小説家になりたいと思ったのは中学生の時です。坂口安吾『墮落論』を読んで文学に目覚め、その直後にミラン・クンデラ『存在の絶えられない軽さ』に出会って衝撃を受けました。これは今でも一番好きな作品です。それから色々あって、やっぱり絵を描きたいと思って美大に進学しましたが、今度は野田秀樹の作品に触れて演劇にのめりこみ、大学の演劇サークルで作・演出をするようになり、ついには自分で小劇団を立ち上げました。しかし立ち上げたのはいいのですが、やがて資金難になり、なんとか名前を売らなければ駄目だ、という話になりました。そこで主宰である私が賞を取る必要に迫られたのですが、戯曲賞は取っても普通の人には読んでもらえない。だから小説を書こう、もともと書きたかったし。というわけで小説を書き、ありがたいことに受賞させていただき、不純な理由ながらもこうして小説家になったわけです。

## 作品を書く過程で苦勞したこと、楽しかったこと

作品の舞台となる場所取材に行くことは楽しくもあり、苦勞もありました。デビュー作『教授と少女と錬金術』は浅野学園の至近距離、京急子安駅が舞台の一つなのですが、立ち寄ったことがなかったので取材で初めて歩き回りました。これは新鮮な発見がありましたし、インスピレーションも湧きました。また、花畑を描く必要があったので横須賀の「くりはま花の国」にまで行こうとしたのですが、スマートフォンで地図を見ながらでもなかなか入り口である駐車場が見えないのです。やがて道はトンネルに繋がっていきます。このトンネルをぬければ、あるいは……と、地図を信頼してトンネルをくぐることにしました。その100メートルはあるトンネルを抜けると、そこは地図の上では入り口……のはずでした。しかし実際には、入り口の駐車場の上空30メートルほどに架かっていた陸橋だったのです。すでにそうとう歩いていた私はいっそ飛び降りようかと思いました。

## 作品の見どころについて

私は2010年から4年間、東京学芸大学の昭和文学ゼミナールという所にもぐってました。といってもこっそりではなく、その教授が、やる気があるのなら外部の人間でも構わない、というスタンスだったので、甘えさせてもらったのです。そこで私はテキスト論の基礎を学びました。テキスト論とは、小説を論じる際に作者や時代性など

といった要素を汲むことをせず、テキストそれ単体を読者が主体となって分析する、といった感じのものです。これを学んだことは、書く時にも当然影響します。つまり、テキスト論によって論じられたとき、これはどう読まれるか、という意識のもと書くことがあるということです。「掘れば、ちゃんと深まる」という点についてなるべく気をつけて書こうとしました。また技法的にはけっこう遊びを入れたりしています。突然詩のようになっていたり、あるいはカット・アップを使ったり。カット・アップはウィリアム・バロウズがよく使っていた、文章を切り貼りして再構成する、絵で言うところのコラージュです。

## 浅野での中高時代の思い出

高校1年の物理の中間試験のことをよく憶えています。私の成績は非常に悪く、それはもう悲惨なものでした。これはそのなかでも特に面白かったものの一つです。物理のテストはB4の解答用紙の左半分が回答欄、右半分が余白で、右の余白は計算など自由に使用してよい、とのことでした。私は解ける問題が一つもないので、最初の何問かだけ適当に答えを書いて、あとは落書きすることになりました。右半分いっぱい使って、チベット密教の神「ヴァジュラヴァイラヴァ」を描いたのです。これがどういうのかというと、男女の神が絡み合いながら、無数の手に仏具を持っている、というものです。我ながら大迫力で、そのまま提出しました。返ってきた採点は、問題が1個正解で5点、落書きは大きなバツがついてマイナス250点、計マイナス245点でした。これは大爆笑、今でも友人の間では伝説として記憶されています。私はその後反省文を書くことになりました。

## 作家を志す浅野生へ

進学したのが美大だったから、色々な人を見てきましたよ。入るのがそこまで簡単ではないところでもあったので、みなわりと器用で、夢あって来たんだと思います。が、在学中、その実力は何度も計られます。進級制作、学内コンクール、卒業制作……上位者には賞が付けられ、その他とは明確に差別化されます。多くの学生はそういった状況で、自身の限界を悟っていくようでした。ものつくりのどの分野でも同じことが言えると思います。私の応募した小説の新人賞でも、何度も出しては落選を繰り返している人も少なからずいるようです。作家になる、ましてやそれで食べていくだけの収入を得るというのは非常に過酷な道です。私のこの言葉を聞いてもなお作家としての道を行きたいという覚悟のある人と、なにも感じないイカれた人だけ作家を目指してください。

平成25 (2013) 年度 浅野中・高等学校各クラブの参加状況と活動実績

Table with columns: クラブ名, 顧問名, 部員数, 主な活動実績. Lists various sports and cultural activities for different clubs like basketball, soccer, and chess.

同窓会の報告

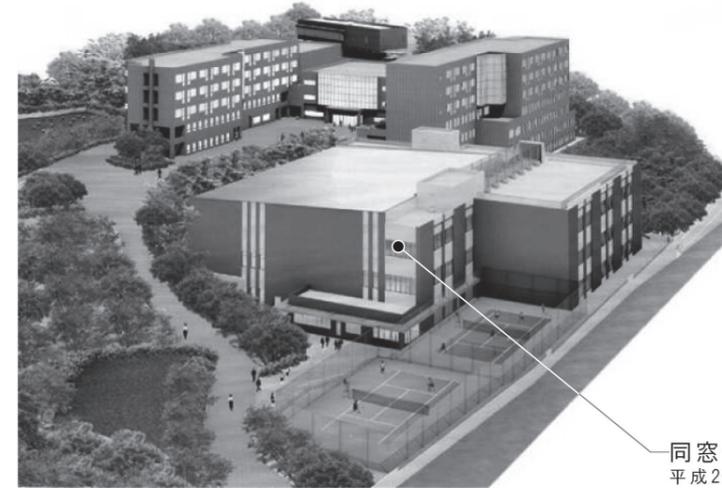
同窓生待望の「同窓会室」ついに登場!

現在建設中の新体育館（今秋落成予定）の3階に同窓生のための「同窓会室」が登場します。今まで同窓会会議などの折りには校舎をお借りして行っていたが、今後はこの同窓会室が利用可能になります。

計中です。基本的な考えといたしまして、なるべく多くの同窓生に利用していただきたく、随時皆様のご意見もお聞きし、また学校側との話し合いの上決めていきたいと考えています。ぜひご期待下さい。

現在、同窓会役員が中心となり利用方法、利用規約などを検討中です。

(広報委員会委員 48期 石土秀貴)



同窓会室 平成26年11月竣工 新体育館3階

掲示板

No. 1 同窓会年度会費(2,000円)納入のお願い

◇本年4月にお届けした「総会案内」に振替用紙を同封しています。

注意 ……ただし、72期～91期（平成7年3月卒～平成26年3月卒）の会員は在学中毎月同窓会費をいただいておりますので、年度会費は納入されなくて結構です。

No.2 (学校より)

打越祭 第1部文化祭…9月14日(日)・15日(月) 第2部体育祭…9月24日(水) (雨天時は翌日以降に順延)

入試説明会 10月18日(土)/20(月)～23日(木) 5日間とも本校講堂で

※詳細は学校にお問い合わせください。

表紙写真 古梶裕之 (61期)

◆◆ 編集後記 ◆◆

今年2月の記録的な大雪では、停電や交通機関の麻痺などで大変な思いをされた方も多いと思います。私も真っ白になった路上に出て、雪国の人々のご苦労に思いを馳せ雪かきに励みました。その雪の融ける間もなく再びの大雪に見舞われ、しかも前日に増して雨を含んだ雪の重いこと、雪国を憂う余裕など無くなってしまいました。45年ぶりの大雪という異常気象は日本だけではなく、ヨーロッパやアメリカでも大寒波、中東でも降雪があったと聞きます。寒冷化の原因の一つとしては太陽の黒点が減少して太陽活動の低下によるらしいが、宇宙の営みでは人間になす術は無い。一方、地球温暖化も大きな原因の一つだろう、こちらは非力な私たちでもまだ打つ手はあると思います。 広報委員長 (48期) 佐藤夕祐

『銅像山通信』・第17号

発行日 平成26年5月20日
発行人 浅野学園同窓会
発行所 ⑤221-0012 横浜市神奈川区子安台1-3-1 浅野中学・高等学校
TEL 045-421-3281 FAX 045-421-4080
編集 浅野学園同窓会広報委員会
印刷 ⑤108-0014 東京都港区芝4-7-8 栞廣済堂
TEL 03-5484-8853 FAX 03-5484-8854